

**政治・経済****【解答】**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5
b	c	a	b	c
問 6	問 7	問 8	問 9	問 10
c	b	d	b	d
問 11	問 12	問 13	問 14	問 15
d	b	d	a	c
問 16	問 17	問 18	問 19	問 20
c	b	c	d	c
問 21	[解答例] 日本政府は 2014 年から観光立国を目指し観光客誘致を積極的に進め、訪日外国人数の大幅な増加は大きな経済効果を上げていた。だが、新型コロナウイルス感染症の影響で宿泊施設や飲食店の売上は落ち込み、土産物店の休業や倒産も発生した。このため、従業員の休職や解雇による失業者の増加や、非正規雇用の就労機会が奪われる事態が起こった。このような状況により 2020 年の日本の GDP は前年比 4.6% 減と過去最大の下げ幅となり、政府は赤字国債を発行して経済対策を行った。			

## 【学習アドバイス】

本学の入試は、例年選択科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となるので、各科目にかけるバランスにもよるが、平均的には50分程度が解答時間となる。本年度の政治・経済の問題構成は、全体で大問5題のうち、大問Ⅰから大問Ⅳが記号選択式問題（各5問ずつ）、大問Ⅴが200字程度の説明論述式問題（1問）となっている。説明論述式問題は、昨年度と同様に経済分野から出題されているが、その他の問題は政治・経済両分野の幅広いテーマから出題されている。なお、昨年度の問題と比較すると、本年度の問題は、①大問の数が1題増えて5題となった、②小問の数が16問から20問へ4問増えた、③語句記述式の問題がなくなり、大問Ⅴ以外はすべて記号選択式の問題になった、④正誤の組み合わせ問題が出題された、という変化が見られ、昨年度にくらべ、難度が若干上昇したが、全体としては基本事項を問う問題で構成されており、教科書レベルの知識を問う標準的な出題である。以下、大問ごとに内容を概観しつつ、今後の学習上必要な点をアドバイスしていきたい。

大問Ⅰは、民主政治についての文章を題材とする記号選択式の問題である。小問の内容は、社会契約説についての正誤判定問題（1問）、市民革命の担い手についての語句選択問題（1問）、国民主権についての正誤組み合わせ問題（1問）、権力分立についての正誤判定問題（1問）、シルバー民主主義についての正誤判定問題（1問）となっている。

大問Ⅱは、資本主義経済の歩みについての文章を題材とする記号選択式の問題である。小問の内容は、アダム＝スミスの思想についての空欄補充問題（1問）、社会主義経済についての正誤組み合わせ問題（1問）、ケインズの思想についての正誤判定問題（1問）、オイルショック後に発生した現象についての空欄補充問題（1問）、新自由主義についての語句選択問題（1問）となっている。

大問Ⅲは、労働問題と中小企業についての文章を題材とする記号選択式の問題である。小問の内容は、労働三法についての語句選択問題（1問）、中小企業についての正誤判定問題（1問）、大企業と中小企業の格差についての空欄補充問題（1問）、日本的経営についての正誤判定問題（1問）、中小企業基本法についての正誤組み合わせ問題（1問）となっている。

大問Ⅳは、日本の人口問題についての文章を題材とする記号選択式の問題である。小問の内容は、合計特殊出生率についての正誤判定問題（1問）、第一次ベビーブームで生まれた世代についての空欄補充問題（1問）、少子高齢化社会についての正誤判定問題（1問）、日本で働く外国人労働者についての正誤判定問題（1問）、政府の方針についての語句選択問題（1問）となっている。

大問Ⅰから大問Ⅳは、いずれも基本的な知識を問う問題であるので、取りこぼすことのないようにしてもらいたい。そのためには、まず、教科書を繰り返し熟読し、基本的な知識の習得に努めることが必要である。その際、意味の分からない用語が出てきた場合には、用語集で必ず意味を確認するようにしてほしい。なお、本年度の問題では、大問Ⅳの間16で具体的な数値を問う問題が出題されているので、最新版の資料集を手元に置いておくとよいだろう。知識のインプットが済んだら、問題集を活用して、アウトプットを行ってもらいたい。具体的には、通学時などの細切れの時間に一問一答形式の問題集で知識の確認をしつつ、入試問題を収録した問題集に取り組んでもらいたい。なお、記号選択式の問題の中では、正誤判定問題や正誤組み合わせ問題で点差が開きがちなので、苦手な受験生は、旧センター試験・共通テストの過去問や共通テスト対策の問題集の中から同種の問題をピックアップして問題演習を行うとよいだろう。

大問Ⅴは、新型コロナウイルス感染症による日本への外国人旅行者の減少が日本経済に与える影響について200字程度で説明する問題である。一般に、論述式の問題は、苦手とする受験生が多く、点差が開きがちである。本学の問題においても、大問Ⅴを攻略できるかどうか合否の鍵を握っていると言える。本学の論述式問題は、教科書の掲載頻度が高い重要事項を説明するタイプと、時事的な話題について論じるタイプの2つに大別することができる。前者については、知識のインプットを終えた後に、『政治・経済 計算&論述特訓問題集』（河合出版）などを使用して、過去に出題された様々な論述問題にチャレンジしてもらいたい。

後者については、日頃の学習の中で、新聞等で頻繁に取り上げられている問題や、資料集の巻頭特集や事例研究で扱われているテーマについて、現状や問題の背景、対策などを200字程度でまとめておくとよい。その上で、できれば学校（または塾・予備校）の先生に添削をしてもらい、記述内容に過不足がないかどうか、チェックしてもらおうとよいだろう。

なお、政治・経済という科目は時事的な話題に最も敏感な科目であり、本年度の問題でも大問Vで新型コロナウイルス感染症の影響についての問題が出題されているので、日頃から新聞に目を通す習慣をつけておくとよいだろう。また、説明論述式問題対策としては、時事的な話題の解説と関連用語を見開き2ページでまとめている『朝日キーワード』（朝日新聞出版）の併用を勧める。

最後に、本学の問題は難問・奇問の類は全くないので、地道に勉強を続けていけば必ず高得点をあげることが可能である。最後まであきらめずに勉強を続け、合格を勝ち取ってもらいたい。